

2004年5月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2004年4月度 高島屋営業報告

* 本年4月1日をもって、岡山店、岐阜店、高崎店を分社化いたしました。これら3店に加え、昨年9月に分社化した米子店の売上を含む、全店18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

百貨店事業概況 本年 -7.7 **実質** 1.0 (前年比%)

4月度は、リニューアルオープンした東京店(4/21)、玉川店(4/28)が牽引、関東は各店とも好調に推移し、衣料品低迷が影響した関西各店のマイナスをカバーし、18店計実質前年比は+1.0%と前年実績を上回った。

店舗別概況

関西	店舗別						関西計	
	大阪店	京都店	泉北店	岡山店	岐阜店	米子店	本年	実質
売上	-4.4	-1.2	-3.0	-3.0	2.1	-4.9	-19.1	-2.9
入店客数	1.0	-2.1	-3.3	1.1	4.2	-4.9		

* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東	店舗別								関東計	
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎店	本年	実質
売上	9.0	0.7	0.5	11.4	0.8	1.8	3.4	0.2	-0.1	3.6
入店客数	25.1	-0.1	-2.0	3.6	3.1	-4.4	-0.8	10.0		

* 横浜店には港南台店の売上を含む

<店舗別> 店舗別では、21日にオープンした東京店が好調に推移、改装したフロアを中心に、紳士服(前年比+19.1%)、婦人服(同+10.8%)、婦人雑貨(同+20.7%)、食堂(同+16.5%)が二桁増のほか、18のプレス・ジブランドを揃えた特選衣料雑貨は同+53.6%と特に高い伸びを示した。また、玉川店でも今回リニューアルした婦人雑貨(同+8.9%)、紳士雑貨(同+13.8%)が好調に推移、特選衣料雑貨(同+38.0%)も引続き売上を伸ばした。一方、関西各店は月後半の降雨等の影響もあり低迷した。

広域事業概況

法人	通販	広域計
-2.6	-27.0	-13.1

<広域事業> 法人事業は新規物件の受注増はあったが、前年の大口物件の受注減をカバーするには至らず前年を下回った。また、通信販売事業もカタログ「春夏号」(4/12発行)他、食料品やテレビの受注は好調なもの、衣料品やリビング用品の低迷により前年を下回った。

総計

本年	実質
-8.1	-0.1

商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-5.9	2.2	身のまわり品	-0.6	6.0	食料品	-5.3	3.5
婦人服・用品	-11.6	-2.7				食堂・喫茶	-7.9	-1.7
子供服・用品	-13.2	-2.6	家具	-15.3	-9.8	雑貨	-5.9	1.6
その他衣料品	-17.9	-7.5	家電	-11.4	-5.1	サービス	-10.5	-7.0
衣料品計	-11.1	-2.1	その他	-19.8	-13.3	その他	-7.4	-1.4
			家庭用品計	-18.2	-12.0	合計	-8.1	-0.1

<店頭商品別> 商品別では、関東各店のリニューアルで導入した新規ブランドが牽引し、特選衣料雑貨(前年比+8.5%)、紳士服(同+6.4%)、紳士雑貨(同+6.8%)、婦人雑貨(同+4.1%)、食料品(同+2.1%)は好調に推移したが、婦人服(同-2.9%)、ヘア・子供(同-1.5%)、リビング(同-7.6%)は低迷した。

以上